

第13回

たんばっ子！ 学びフェスタ

発行：たんばっ子！学びフェスタ実行委員会事務局

「たんばっ子！学びフェスタ」第5回実行委員会 報告

— 次年度へつながる“学びの楽しさ”を再確認 —

令和8年3月4日(水)、「たんばっ子！学びフェスタ」第5回実行委員会が開催されました。今年度の取り組みを振り返るとともに、よりよい運営につなげるためのアイデアや改善点について、活発な意見交換が行われました。

■ 体験型ワークショップ、チャレンジ Quest・チャレンジ Q の振り返り

本イベントの柱である「体験型ワークショップ」については、多方面から手ごたえと課題が報告されました。重機体験では、「運営体制の見直しや機材数の検討が必要」との意見が出されました。

一方、ふれあい動物園や高校生が運営する制作体験では、子どもだけでなく保護者や高齢者にも好評で、地域全体で楽しめる催しとして定着してきています。

高校生からは、異年齢の来場者との交流や、他校生とのつながりが広がり「大きな学びになった」との声が上がりました。ブース運営を担当した生徒たちの、達成感に満ちた表情がとても印象的でした。

■ 子どもたちに“本物の体験”を

委員からは、「自ら手を動かして作り上げる体験の大切さ」「本物に触れる機会が子どもの心を動かす」という意見が多く寄せられました。作品を抱えて帰る子どもたちの姿や、見守る保護者の笑顔からも、本イベントが地域の学びの場として確かな役割を果たしていることが感じられました。

■ イベントの“次のステージ”へ

委員からは、「学びフェスタが定着してきた今、今後は規模や方向性をどう考えるか」という中長期的な視点も示されました。本イベントのコアである“学びの動機づけ”を守りつつ、新たな挑戦も必要であるという意見が多く寄せられました。

また、学校現場にフェスタの趣旨をより広く伝え、「進路や学びに関する気づきの場」として活用してもらうための発信強化を求める声もありました。

■ 総括

今年度も多くの関係者・高校生ボランティア・協力団体の支えにより、たんばっ子！学びフェスタは盛況のうちに開催されました。実行委員会では、次年度に向けて改善点を共有するとともに、「学ぶ楽しさを地域全体に広げる場」としてフェスタをさらに発展させていく決意が確認されました。

